

にしっこ 西っ子のみなさんへ 110 9月24日

今日、9月24日は「畳の日」です。

実は、畳の日は年に2回あり、イグサの緑色から制定当時「みどりの日」であった4月29日も畳の日とされています。

畳の日は、畳のもつ住宅材としての素晴らしさ、敷物としての優れた点をアピールしていく日として制定されました。

畳の1枚の大きさを「一畳」といいますね。3尺×6尺(910mm×1820mm)の大きさが基本となりますが、地域によって大きさが異なります。京間(本間)、中京間、江戸間、団地間の4種類が有名ですが、一番大きな京間と一番小さな団地間では、長辺の長さが21cmも異なります。

古代の畳は、むしろ・ござなどの薄い敷物の全般のことを言いました。使わないときは畳んで部屋の隅に置いたことから、動詞の「たたむ」が名詞化して「たたみ」になったといわれています。

知ってのとおり、芯材になる畳床に、イグサを織って作った畳表を張り付けて作ります。縁には畳表を止めるためと装飾を兼ねて、畳縁と呼ばれる帯状の布を縫い付けるのが一般的ですが、畳縁の無い畳もあります。

このような畳が作られるようになったのは平安時代に入ってからで、厚みが増えるとともに部屋に据え置いて使うようになりました

畳縁の色や柄で部屋の雰囲気が変わります。昔は、身分などによって利用できる畳縁がきめられていたそうです。あと、畳縁を踏まないように歩くのが作法であることを覚えておきましょう。



みなさんの家には畳の部屋、和室がありますか？ 現在の家は西洋化してフローリングの部屋が多いのではないのでしょうか。わたしの家も和室は1部屋のみです。寝室はフローリングですが、子どもが小さいうちはベッドより布団の方がよいだろうということで、畳を並べてその上に布団を敷いて寝ていました。

家を建てる時に和室を作る人はどれくらいいるかを調べるアンケートの結果をみると、85%の人が和室を作ると答えています。やはり日本人、ごろっと寝転がれる畳の部屋を無くすことは勇気がいることなのかもしれません。ただ、昔の家みたいに大きな和室(8畳間とは10畳間)をつくる方は少ないようで、作られても6畳間のようです。我が家の和室の大きさも6畳です。

畳表の国産イグサの殆どは、熊本県の八代市で生産されています。熊本県の畳表は「肥後表」と呼ばれ、1503年に上土城主であった岩崎主馬守忠久公が、自らイグサを植えて見せ、農民に栽培を奨励したことが始まりであるといわれています。伝統のイグサづくりが今も大切に受け継がれています。大人になって家を建てられ、畳を注文される場合は、是非肥後表もその候補に！

